



めし 山の音 浮雲 流れる 女が階段を上る時 娘妻母 放浪記 乱れる 女の中にいる他人 乱れ雲

成瀬巳喜男監督・生誕100年記念

成瀬巳喜男 東宝傑作選



成瀬巳喜男プロフィール

明治38年8月20日東京・四谷に生まれる。15歳で松竹キネマ蒲田撮影所に小道具係として入社。やがて助監督に抜擢され、昭和15年には「チャンバラ夫婦」で監督デビューを果たす。無声映画の爛熟期にあつて「蝕める春」「君と別れて」「夜ごとの夢」などで高い評価を得たが、昭和10年『トーキーが撮りたくて』PCLに移籍。その第一作「乙女ごころ三人姉妹」が好評をもって迎えられ、同年「妻よ薔薇のやうに」では早くもキネマ旬報ベストワンを獲得する。太平洋戦争を前後してしばらく低迷期が続くが、昭和26年、急病の千葉泰樹監督の代打でメガホンを取った「めし」が大ヒット。起死回生の一作として、また成瀬映画の新しい到達点として記念すべき作品となった。その後は「おかあさん」「妻」「山の音」「晩菊」など充実の作品群を次々に発表し、昭和30年、日本映画史に残る名作「浮雲」で絶頂をきわめた。昭和35年には「女が階段を上る時」と「娘・妻・母」が続けて大ヒットし、「女性映画の巨匠」ならではの面目を施している。



昭和42年「乱れ雲」の撮影中より体調を崩していたが、病床に伏し、昭和44年7月2日63歳で逝去した。長い期間にわたって東宝の黄金期を支えた監督であり、黒澤明、小津安二郎、溝口健二と共に、成瀬もまた日本が世界に誇る映画作家であった。

フィルモグラフィ

チャンバラ夫婦/純情/不景気時代/愛は力だ/押切新婚記(1930) ねえ興奮しちゃい/やよ/二階の悲鳴/腰弁頑張り/浮気は汽車に乗って/髭の力/隣の屋根の下(1931) 女は袂を御用心/青空に泣く/偉くなれ/蝕める春/チョコレートガール/生さぬ仲(1932) 君と別れて/菓子のある東京風景/夜ごとの夢/僕の丸髭/双眸/謹賀新年(1933) 限りなき舗道(1934) 乙女ごころ三人姉妹/女優と詩人/妻よ薔薇のやうに/サーカス五人男/噂の娘(1935) 桃中軒雲右衛門/君と行く路/朝の並木路(1936) 女人哀愁/雪崩/禍福・前後篇(1937) 鶴八鶴次郎(1938) はたらく一家/まごころ(1939) 旅役者(1940) なつかしの顔/上海の月/秀子の車掌さん(1941) 母は死なず(1942) 歌行燈(1943) 愉しき哉人生/芝居道(1944) 勝利の日まで/三十三間堂通し矢物語(1945) 浦島太郎の後裔/俺もお前も(1946) 四つの恋の物語[第2話]/春のめざめ(1947) 不良少女(1949) 石中先生行状記/怒りの街/白い野獣/薔薇合戦(1950) 銀座化粧/舞姫/めし(1951) お国と五平/おかあさん/稲妻(1952) 夫婦/妻/あにいもうと(1953) 山の音/晩菊(1954) 浮雲/くちづけ[第3話](1955) 驟雨/妻の心/流れる(1956) あらくれ(1957) 杏子/罅雲(1958) コタンの口笛(1959) 女が階段を上る時/娘・妻・母/夜の流れ/秋立ちぬ(1960) 妻として女として(1961) 女の座/放浪記(1962) 女の歴史(1963) 乱れる(1964) 女の中にいる他人/ひき逃げ(1966) 乱れ雲(1967) ※()内は製作年

©2005 TOHO CO., LTD. NOT FOR SALE. FOR PROMOTIONAL USE ONLY.

成瀬巳喜男 プレミアム・セレクション10

全作品ニュープリント上映

■入場料金：一般1,800円/学生1,500円
 小人・シニア1,000円/シネマイレージ会員：1,000円
<http://www.tohocinemas.co.jp>

VIRGIN TOHO CINEMAS 六本木ヒルズ
 六本木ヒルズ・けやき坂コンプレックス内 03(5775)6090

| | | |
|------------|----------|-------------------|
| 3月5日～11日 | 浮雲 | 連日10:30/13:10 |
| 3月12日～18日 | 乱れ雲 | 連日10:30 (1回限り) |
| 3月19日～25日 | 放浪記 | |
| 3月26日～4月1日 | 山の音 | |
| 4月2日～8日 | 流れる | |
| 4月9日～15日 | 女が階段を上る時 | |
| 4月16日～22日 | 女の中にいる他人 | |
| 4月23日～29日 | めし | |
| 4月30日～5月6日 | 乱れる | |
| 5月7日～13日 | 娘・妻・母 | |

夫婦50割引
 2004年7月1日から50歳以上かつ夫婦2,000円。60歳以上の方は従来通りお一人1,000円です。
www.eigakan.org



- 東京メトロ・日比谷線「六本木駅」より徒歩3分
- 都営大江戸線「六本木駅」■東京南北線「麻布十番駅」
- 東京メトロ・千代田線「乃木坂駅」



東宝が誇る日本映画界の巨匠・成瀬巳喜男



©1951 TOHO CO., LTD.

めし

出演：原節子／上原謙／島崎雪子
モノクロ／97分／スタンダード／1951年(昭26)

周囲の反対を押し切って結婚したものの今は倦怠な雰囲気が否めない夫婦の家に、奔放な姪が転がり込み、二人の間に波紋を投げかける。林芙美子の未完となった絶筆の映画化。病氣降板の千葉泰樹監督に代わりメガホンを取った成瀬巳喜男は、本作で長い低迷を打破するだけでなく、独自の映画スタイルを構築する記念すべき傑作を誕生させ、作品的にも興行的にも喝采をもって迎えられた。



©1954 TOHO CO., LTD.

山の音

出演：原節子／山村聡／上原謙
モノクロ／95分／スタンダード／1954年(昭29)

ノーベル賞作家・川端康成の原作を水木洋子が脚色。息子夫婦と暮らす信吾は、自身の老いと漠然とした孤独感に疲れを感じている。浮気がちな夫に耐える嫁の菊子を不憚に思い優しく気遣うが、そこに芽生えたほのかな気持ちを意識せずにはいられなかった…。強い意思を清楚な美しさに潜めた菊子を、原節子が見事に演じている。「めし」以降、成瀬巳喜男の好調ぶりを示す傑作。



©1955 TOHO CO., LTD.

浮雲

出演：高峰秀子／森雅之／中北千枝子
モノクロ／124分／スタンダード／1955年(昭30)

戦中戦後の混乱期の中でただ愛欲の赴くままに流され落ちていく男女を見つめた、林芙美子原作の映画化。『俺にできないシャシは溝口(健二)の「祇園姉妹」と成瀬の「浮雲」だ』と小津安二郎監督の言葉が伝えるように、本作はまさに成瀬映画の集大成であり、日本映画史に残る名作中の名作と言える。キネマ旬報ベストテン第1位をはじめ、昭和30年度の各映画賞を総なめしている。



©1956 TOHO CO., LTD.

流れる

出演：田中絹代／山田五十鈴／高峰秀子
モノクロ／117分／スタンダード／1956年(昭31)

柳橋界隈の花街を舞台に、芸者置屋で働く女中の目を通して、そこに集う女たちの悲喜劇を淡々と描く。幸田文の同名小説を、「めし」「晩菊」に続いて田中澄江と井手俊郎が共同で脚本を担当。田中絹代、山田五十鈴、高峰秀子、杉村春子など日本映画史を彩る女優陣の出演が華やかだが、なかでも成瀬に請われて18年ぶりの出演となった、往年の大女優・栗島すみ子の存在感が素晴らしい。



©1960 TOHO CO., LTD.

女が階段を上る時

出演：高峰秀子／森雅之／団令子
モノクロ／111分／シネスコサイズ／1960年(昭35)

タイトルは、夫を失い、銀座の高級バーで働くヒロインの店がビルの2階にある事にちなむ。前作「コタンの口笛」で新境地を開拓した成瀬だが、本作では菊島隆三のオリジナル・シナリオによって得意の分野である“女性映画”に立ち戻った。興行も大ヒット。雇われマダムを演じる高峰秀子のナレーションが、華やかな夜の銀座に蠢く人々の虚実を綴る。

監督。珠玉の10作品がニュープリントで登場。



©1960 TOHO CO., LTD.

娘妻母

出演：原節子／三益愛子／高峰秀子
カラー／122分／シネスコサイズ／1960年(昭35)

東京山の手に住む家族が、経済的な躓きから、その「家」を物質的にも精神的にも失っていく。前作「女が階段を上る時」の成功で、“女性映画の巨匠”としての面目を施した成瀬が、「阿片戦争」以来17年ぶりの共演となった原節子と高峰秀子など、東宝オールスターを総出演させて一層の豪華版を図った作品。狙い通り興行力は絶大で、昭和36年度の東宝No.1ヒットを記録した。



©1962 TOHO CO., LTD.

放浪記

出演：高峰秀子／田中絹代／宝田明
モノクロ／124分／シネスコサイズ／1962年(昭37)

ベストセラーとなった林芙美子の自伝的小説は、菊田一夫の脚色、森光子主演による舞台化が大ヒットして今日に至るが、その3度目となる映画化。行商人の娘として生まれたヒロイン・ふみが、貧困にあえぐなかでカフェの女給などをしながら詩作に励み、やがて文壇で脚光を浴びるまでを描く。主演の高峰秀子をはじめ、母親役の田中絹代、夫役の宝田明などの好演が光る東宝創立30周年記念作品。



©1964 TOHO CO., LTD.

乱れる

出演：高峰秀子／加山雄三／草笛光子
モノクロ／98分／シネスコサイズ／1964年(昭39)

スーパーマーケットの進出で商店街にかつての賑わいはない。夫に先立たれた礼子は嫁ぎ先の酒屋を一人で切り盛りしていたが、東京の会社をやめて帰ってきた義理の弟・幸治に思いを告白される。幸治の気持ちに揺れ動く礼子は家を出る決意をするが…ラストでの高峰秀子の表情が胸を突く。前年「名もなく貧しく美しく」で監督デビューを果たした松山善三のオリジナル脚本による成瀬後期の代表作である。



©1966 TOHO CO., LTD.

女の中にいる他人

出演：小林桂樹／新珠三千代／三橋達也
モノクロ／102分／スタンダード／1966年(昭41)

エドワード・アタイヤのミステリー「細い線」を映画化した心理サスペンス。誤って不倫相手の女性を殺してしまった夫。告白を受けた妻はその裏切りを許し、子供のためにも事件を隠蔽しようと画策する。成瀬映画には珍しい題材ではあるが、市井の家族にスポットを当て、殺人を犯した夫と家を守ろうとする妻の心の動きが、スタンダード・サイズの画面に緊張感たっぷりに描かれている。



©1967 TOHO CO., LTD.

乱れ雲

出演：司葉子／加山雄三／草笛光子
カラー／108分／シネスコサイズ／1967年(昭42)

夫を交通事故で失った美しい未亡人とその事故の加害者である青年が、次第に距離を縮め、やがて許されない純愛に悩み苦しむ。脚本は、日活で「銀座の恋の物語」などを手掛けた山田信夫初の東宝作品。風光明媚な十和田湖での男女の道行きが、成瀬演出によって叙情性たっぷりに描かれている。本作から2年後に成瀬巳喜男は63歳で逝去。これが遺作となった。